自然について学ぶチャンス

朝の会の様子を確認しようと、北舎三階に足を運びました。一年生の教室が並ぶ階ですので、今はCDデッキから校歌が流れています。瑞浪北中の校歌は、軽快とは言えないものの、しっとりとした風情（ふぜい）のあるものだと私は感じています。

その校歌を聴きながら、私はもう一つ風情のある音を耳にしました。それは、校舎北側の林の中から聞こえてきたウグイスのさえずりです。廊下側の窓から飛び込んでくるその鳴き声は、校舎で反響するためか、結構大きな鳴き声で、林と校舎の間に一定の間隔で美しく響いていました。

教室側から聞こえてくる校歌よりも、その美しいさえずりに私は心奪われ、しばらく廊下に立ち止まって、それを楽しんでいました。

「生徒たちはウグイスの鳴き声に気付いているかな。」

時間通りに始まった朝の会に取り組む彼らの姿を見て、私はふと思いました。そして、ある一人の先輩教師のことを思い出しました。

その方は、私が二十歳後半の若い教師だったときの学年主任でした。土岐少年自然の家（平成二十五年度に閉鎖）に、生徒たちを引率していったときのことです。朝の集いが始まる前、玄関の階段に身動き一つせずに座っているその方の姿をみつけました。「おはようございます」と、私があいさつしても微動だにしません。

「安藤君、この辺りに何種類の鳥がいるかわかるか。」

私はいきなり話しかけられ、びっくりしました。

「九種類やな……こういうところに来た時ぐらい、自然の中にじっくり身を置こまいか。子どもたちは周りに自然が多いということは知っているけど、その自然についてほとんど知らない。そういうことを教えてやるのも教師の役割やでな。」

今私が担任だったら、生徒を廊下に呼んで、校歌よりもウグイスの鳴き声を聞かせたかもしれないなあ。自然のすばらしさを学ぶチャンスがいつ来るかわからないからね。

（六月二十九日　記）

校歌を聴く1年生。このとき廊下側からは……